

【氏名】 竹内 愛

【所属大学院】（助成決定時） 名古屋大学大学院

【研究題目】

ネパール・ネワール族社会における女性自助組織による開発とジェンダー構造の変化
—内側からの視点—

【研究の目的】

本研究の目的は、主に3つ挙げられる。第1に、ネパール・パタン市のネワール族社会の「ジェンダー構造」、「カースト構造」などの伝統的社会構造と「儀礼・祭祀」、「女性の生活」などの文化について明らかにすることである。第2に、女性自助組織「ミサ・プツァ」の生成・発展と「フォーマル」、「インフォーマル」な活動の実態を調査する。さらに、第3として、「ミサ・プツァ」がネワール社会と女性の生活にどのような影響を及ぼしているのかを分析する。

そして、上記の3点を調査・分析することによって、「開発とジェンダー」研究における、内側からの視点と社会的背景の包括的把握を目指す研究方法の確立による新たな可能性の探究をしたい。文化人類学的フィールドワークによって、実際の女性たちの生活に入り込み、女性たちの内側からの視点を明らかにし、彼女たちにとっての「開発」とはどのような意味をもっているのか、その実相を解明したい。

【研究の内容・方法】

ネパールのパタン市に居住するネワール族は、マッラ王朝期からの非常に厳格な「ジェンダー構造」、「年長の序」、「カースト制度」を現在まで引き継いで生活している。これまで、ヒンドゥー教に基づいた伝統的女性観によって、女性は夫と夫の父系出自集団に仕え、生活範囲は嫁ぎ先、実家、親族の家という非常に狭い世界であった。しかし、このような伝統的社会に、近年、「開発」として女性自助組織「ミサ・プツァ」が NGO、国際 NGO によって持ち込まれ、「マイクロファイナンス」、「職業トレーニング」などを始めている。1999年を最後にグループ形成のプロジェクトは終了したが、女性たちはパタン各地に、自発的に「ミサ・プツァ」を形成しており、現在グループ数は70を超えていると言われている。本研究では、「ミサ・プツァ」を女性たちがどのように受け入れたのか、そして、「ミサ・プツァ」によって、女性たちの生活世界、そして、社会的な「ジェンダー構造」はどのように変化しているのか、女性たちの視点から分析する。

研究方法は、実際に女性たちの生活に入り込み、文化人類学的参与観察と聞き取り調査で行う。第1に、「ミサ・プツァ」の開発の「フォーマル」な活動である「マイクロファイナンス」、「職業トレーニング」が女性たちによってどのように活動されているのか明らかにする。そして、第2に、公的祭には伝統的に男性のみが加入する儀礼執行組織「グティ」が運営していたが、「ミサ・プツァ」も「グティ」とともに参加するようになったので、そのような開発の「インフォーマル」な活動として、女性たちがどのように活動するようになったのか、それによって社会的な

「ジェンダー構造」がどのように変化しているかを解明する。最後に、第3として、行政の女性スタッフが「ミサ・プツァ」にかなりのイニシアチブをとってきたので、彼女たちの「ミドルマン」としての役割にも注目して調査する。

【結論・考察】

パタン市各地に自発的に形成されている「ミサ・プツァ」の公的活動内容は、必ずしもその本来の目的を果たしていない。「マイクロファイナンス」は月々の掛け金が小さく、グループ基金が小規模であるので、機能しているとは言えない。そして、トレーニングを受けた後も彼女たちに起業の意識は希薄である。開発の指標からみるとうまくいっているとは言えないが、女性たちは開発の「フォーマル」な面よりも「インフォーマル」な活動に意義を見いだしている。第1に、友達ができ、従来家庭内にこもりがちであった女性の「生活世界が拡大」したことである。第2に、以前とは異なる人的ネットワークが形成され、「新たな相互扶助」のルートが発生したことである。そして、第3に、公的祭に仲間と参加することで、従来は家庭内に限定されていた彼女たちが、「公的活動」に従事できるようになったことが挙げられる。このような「ミサ・プツァ」の活動によって社会的な「ジェンダー構造」の変革を引き起こしつつある。「開発とジェンダー」研究に文化人類学的手法を組み込むことにより、フォーマルな視点からは見えない、内部からの包括的視点による「開発とジェンダー」の実相が明らかになった。